

SHIN CLUB78

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



今月のトーク/monthly talk

「玉川田園調布の家」全景 撮影:間瀬憲隆

空家プロジェクト

8月末の2日間の休日を利用して、第3回「大地の芸術祭～越後妻有アートトリエンナーレ 2006」に行ってきました。世界40カ国の芸術家たちにより、300点以上もの作品の展示が、約760km²にわたる里山に繰り広げられました。なかでも廃屋になった伝統的な民家の再生活用をいろいろな方法で行なった数十件の「空家プロジェクト」が見ものでした。

芸術を表す「アート」(art)とは、もともと「人工」という意味。自然のままの状態に人の手を加えたことを意味します。新潟の里山に点在するアートを見て、何が自然で何が人工かということを考えさせられました。例えば、古びて汚れたものは自然か不自然か、美しいか醜いか、ということです。私たちが、身の回りに求めていることは何なのか。美しいものなのか、自然なものを求めているのか思いを巡らしました。

古くなり、あるいは災害で損害を受けて、住む人から捨てられた民家には、もう価値はないのでしょうか。訪れた多くの民家では様々な答が用意されていました。例えば、「夢の家」と呼ばれる築100年の民家は、夢を見るための宿屋です。廃墟のような民家で長い時の流れを意識した宿泊者は、良い夢を見られるように風呂に入り、用意された食事をとり、棺の中で眠ります。そしてその晩に見た夢を「夢の本」に書き写すのです。

「脱皮する家」では、古い民家を修復して、全ての柱、梁、床、壁の木の表面を彫刻刀で削り、干からびた皮の下から新しい木の肌を見せる作業を施していました。版画作品のような家には木の香りが蘇っています。建物が古くなるということは、とても自然なこ

となのですが、それに手を加えることによって、新しい魅力が生まれているのです。

これらは、決して新築では出来ないことです。新築が「何もないところに作るアート」だとすれば、このプロジェクトは、古びた家という「自然」に手を加えるアートです。どんなにすばらしい設計をしようとも、どんなに立派な工事をしようとも、やがて色あせ、壊れていくのが「自然」だとすれば、それに手を加えながら新しい魅力を引き出し続けることも可能です。自然と人工の兼ね合いの中から生まれるものにこそ魅力があるのです。逆に、ただ古くならないよう、錆びない材料、色の変わらない壁紙、磨り減ることのない床など、新しさを維持することばかり考えたものづくりが、魅力を持ち続けることができるのでしょうか。古くなるのが自然でなく、却って不自然になってしまふような偽者の材料に囲まれているうちに、私たちの感覚から「自然」が失われ、その結果「アート(人工)」の魅力まで失われつつあるのではないのでしょうか。

考えてみれば、里山の風景は全て人の作った人工のものです。植林された山に丁寧に作られた棚田、そして長い戦いの末に現状に落ち着いた水の流れ道等々。これらが時を経て成長し、古びた姿を見て、私たちは「自然」を感じますが、こうした自然をアレンジした「アート」を見ているうちに、風景全てがアートに見えてきました。私たちの住む都会の住宅地でも、こうした「眼差し」を持つことができれば、アートに満ち溢れた素敵な街に出来るのではないかと感じました。

玉川田園調布の家 新築工事

「自由が丘・田園調布エリアに建つ個性的な建売住宅」

□全体計画

敷地は真中に引き込み道路を設け、周りを6分割した開発プロジェクトである。

北側は小学校のグラウンド、西側は小学校の農園、南側は道路、東側は宅地で非常に落ち着いた場所である。クライアントからは北側3棟(私たちの担当ではC,D棟)は地下室を利用すること、その他の3棟(私たちの担当ではA棟)は屋上利用することが求められた。それに加えてこの場所の特性上、エンドユーザーは、人とは異なるプラスアルファを求めてくると想定し、全体のデザインも各棟で調和しながらも個性を持たせることが求められた。そこでRC打ち放し+左官仕上をベースに、各棟表情が異なるよう色や(白、ベージュ、こげ茶)素材(木や鉄)といったテイストを、バランスよく配置している。

またプログラムのにも特徴が出るように、ギャラリースペースやDEN(書斎空間)といったものをそれぞれ付随させることを提案した。(阿部泰道/a-scope)

所在地：世田谷区
構造：RC造
用途：専用住宅
企画：(株)アトリウム
設計：阿部泰道/a-scope
撮影：間瀬憲隆、ほか



左:A棟全景。オープンなエクステリアは世田谷区の条例を遵守している。左官仕上げの白壁は、型押しテクスチャで親しみやすい表情を見せている。
上:明るい階段室とギャラリーホール。

□A棟

地上2階+PH階
床面積 約40坪

敷地引き込み道路の入口部に位置し全体の顔となるようなデザインを要求された。

玄関ホールと階段スペースの間を繋ぐ位置にギャラリーホールを設け、絵画や彫刻を飾るスペースとしている。これはリビングへ至る前の来客をもてなすパブリック空間ともいえる。

前面引き込み道路に面する壁面は左官のこて仕上とし、特長的な表情を持っている。また階段スペースが隣地の敷地、建物にかかる場所にあるため、暗くなってしまうことがないように、2階からの階段は踏板にファイバーグレーチングを使用し、上からの光を落とすようにしている。

□D棟

地上2階+地下1階
床面積 約40坪

引き込み道路正面に位置するこの敷地は、全体では否応無しに目立つため、プライバシーを考慮し2階にLDKを設けている。C棟同様、半地下空間を有しスキップフロアになっている。LDKと連続する位置にDENを設けた。作り付けのデスクとブックシェルフが設置されている。南面に設けられた木製のルーバーは、プライバシー確保と採光、通風を考慮したものである。



上:D棟全景。左下:リビングダイニング。階段室のところに本棚があり、その窓側にDENがある。
右下:玄関ホールと階段室。壁のタイルが表情豊か。地下室もドライエリアがあり暗さを感じさせない。

□C棟

地上2階+地下1階
床面積 約51坪

敷地形状が南東で接道しているため、建物が北側に寄せられている。

地下室の利用が求められたため、リビング階を半階分上げその下を半地下空間として利用している。ドライエリア上部のバルコニーをグレーチングにすることで採光、通風を確保しており、十分居室としての使用が可能な状態である。ホビールームやオーディオルームとしての使用が考えられる。リビングは南面に吹抜けを持ち上階の主寝室と一体感を持ったものとなっている。



左:C棟全景。こちらの左官仕上げは櫛引。他棟との違いを見せる。
上:1階リビングダイニング。2階の吹抜け部分からも光が差しこみ、明るい室内。



阿部泰道 profile

芦屋真人(あしやまさと)
 1970年 静岡県静岡市生まれ
 1992年 日本大学生産工学部建築工学科卒業
 1992~99年 (株)黒川紀章建築都市設計事務所
 2001年 Architectural Association School of Architecture (London)
 大学院修士課程終了
 2002年 一級建築士事務所a-scope共同設立

阿部泰道(あべやすみち)
 1973年 埼玉県浦和市生まれ
 1997年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
 (1996年 OZONE主催 リビングデザイン賞 奨励賞受賞)
 1997~2001年 (株)黒川紀章建築都市設計事務所
 2001~2005年 青山コミュニティーカレッジ非常勤講師
 2002年 一級建築士事務所a-scope共同設立

今月は、「玉川田園調布の家」の設計者、阿部泰道さんにお話を伺いました。阿部さんは、芦屋真人さんと共同で「a-scope」という設計事務所を主宰しています。

—建築家を目指したのはいつごろからですか

阿部：小さい時から絵を描くのは好きだったので、工業デザインとかそういう仕事をしたい思いはありました。ところが国語は得意なのに、数学はビリから2番目というくらい苦手。高校の理系クラスでは苦労しました。

—現実には、建築設計の仕事は、国語の能力、コミュニケーション能力を随分と必要とされるようです。

阿部：本当にそうです。おかげで一浪して、東京理科大建築科に進みました。校舎は千葉の野田にあり、田舎だったので集中して勉強できました。学生時代には設計の課題が前期に2題、後期に3題ありましたが、その合間にいろいろとコンペに応募していました。3年生の時にOZONEのデザインコンペ「大切な人に贈る小さな家」で入賞しました。ビルの隙間の地下にある小さい部屋、将来の子供のための小さな家です。僕らが小さいときに路地裏で遊んだような、都市の余白をイメージしました。4年生になってシーラカンスの小嶋一浩先生の研究室に入りました。卒業設計はホスピス+商業施設。社会に出ることがわかっていたので現実的な提案を行い、一次審査では良い評価を頂いたのですが、プレゼンテーションで学生らしくないと言われたりしてね。卒業後は作品をポートフォリオにまとめたりして、1ヶ月は今でいうニート状態でした。

—厳しいですね。

阿部：それが近所に黒川紀章建築都市設計事務所の元秘書の方がいて、募集があると話を持ってきてくれたので面接に行ったところ、気に入られて採用されました。当時は、手作業からCADによる設計へどんどん移行しつつある時期で、ちょうど自分のような若い即戦力になる人間が求められていたと思いますね。大阪府庁舎プロジェクトのスタッフとして配属されたんですが、すぐにやってきた黒川先生にCADの図面を描く場所に連れていかれ、国内外の美術館や公的な施設などのコンペチームのスタッフとして仕事をすることになりました。

—実際に建設される建物の設計にかかわりたいという思いはあったんですか。

阿部：常にそれがあってので異動願いを出すのですが、すぐにコンペのチームに戻されてしまいましたね(笑)。半ばあきらめていて、4年経ったところで2001年に退社しました。

それから自分より前に独立していた先輩の芦屋と設計事務所を立ち上げ、彼の地元の静岡を基点に仕事を始めました。はじめは浜松の歯科医院併用住宅で建築面積400㎡、総工費1億2000万円くらいの建物でしたが、設計料は結構叩かれたと記憶しています。

でも「2人でやれば、倍の仕事が出来る」と、それ以後、とにかく実績を重視してやってきました。そのうちどんどん仕事が来るようになりましたね。芦屋の営業力がものを言っていると思います。うちはホームページもないし、わりと土着的な営業をしているかもしれません。

—今回の「玉川田園調布の家」は、阿部さんの仕事ですね。

阿部：自分が以前、専門学校で夜間の社会人向けコースでCADを教えるクラスを持っていたのですが、その関係で建築主の会社に紹介された物件です。担当課長が設計に対して理解のある方で、基本のコンセ

プトだけで細かいことはおっしゃらなかったですね。

—今後はどういうご予定がありますか。

阿部：この後、静岡で老人ホーム(敷地面積約4000㎡)の設計が予定されています。三島ではオフィス(敷地面積約1200㎡鉄骨造)の計画もあります。コンピュータソフトやシステム開発を行う会社の研究所で、何とか年内に設計を終え、着工にこぎつけたいと考えています。

それから8月23日から26日まで、東京ビッグサイトで行われるグッドデザイン賞2006ノミネート作品プレゼンテーションに我々の作品が出ています。「Pack(s) パックス」という鉄骨造のユニットの建物ですが、住宅、SOHO、店舗に応用できる建築です。

—それはぜひ、拝見したいですね。

阿部：設計事務所として、いろいろなところで機会を得ること、実績を積むことは大事だと考えています。芦屋と2人で組んでいくメリットは、1人でやるより規模の大きいものができること、客観的に見てくれる人間がいること、いざというときに1人ではない心強さですね。もちろんスケジュールやプロジェクトの内容によって担当する物件は振り分け、それぞれ責任を持ってやりますし、図面を描くのは基本的には1人です。でも2人でやっていて良かったという場面がありますね。実は今回の仕事も、最初の基本設計は自分がやったのですが、途中で体調をくずして入院してしまいました。その間、芦屋が代わりに仕事をこなしてくれて最後は僕が収めたのです。

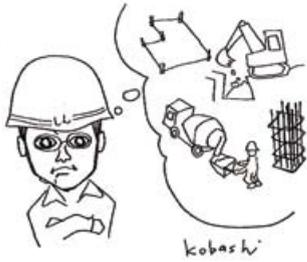
—大事にならず本当に良かったですね。今後ともご活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

グッドデザイン賞2006ノミネート作品 「Pack(s)」



静岡県御殿場市 プロデュース：アラキ
 設計：a-scope 芦屋真人 阿部泰道

同じ形状の直方体ユニットを単純に上下に積み上げるだけではなく、90度回転させながら、また、半ユニット分だけオフセットするように積み重ねたり、また半分だけ跳ねだすように積み重ねるなど、様々な積み上げ方を可能としたユニット工法。ユニットの内装、仕上げはそのほとんどが工場内で製作されるため、積み上げ方のバリエーションが増えることは内部プランニングのバリエーションを増やし、様々な要求に柔軟に対応可能。



Kobashi

八月十七日(木)
夏期休暇も終わったがまだまだ暑い日が続く。「板橋共同住宅新築工事」の現場は、川沿いの遊歩道の脇にあり、暑いこの夏でも、桜並木を通して時折心地よい風が吹きぬける。

昨年、ある建築設計事務所からこの辰に入社した。社会人当初は店舗、銀行内のインテリアの設計・施工を行う会社で営業設計を行っていた、その後ある設計事務所に入所し、主に官庁物件を扱った仕事をして都営住宅や首都高の各施設等の設計を行っていたが、次第に仕事は民間にシフトしていき、デベロッパーのマンションや店舗施設の設計、その他土地の有効活用の為の法テック・ポリウムテックなども行うようになっていった。五年近く勤めていたが、いろんな建築雑誌を読んでいろいろ名前を見るようになる。特にコンクリート打ち放しの個人住宅を手がけているのが興味深かった。机上の設計の立場から、どうしても現場での仕事をしたい思いが強くなり、辰の扉を叩いた……。



弘中 武
念願の基礎工事の
管理に打ち込む

いよいよ土工事が始まった。自分分は、建築の基礎工事だけはこれまでこの目で見て管理をしたことがなかっただけに、ようやく待ちに待った機会が訪れたという感じだ。遣り方、杭工事、根伐り、山留工事、基礎掘削、捨てコン、仮枠、配筋、コンクリート打設、基礎と建物の接合。一連の工事をマスターしたい。休暇前には緊張感を持って基礎コンの打設に臨んだ。

鉄骨造の建物は地上四階、建

坪は百二十坪。建て主自身が設計者で親族との共同住宅だ。将来の緑化計画に該当する可能性があるの、構造的に建替え可能になっている。今日は基礎コンの型枠をバラす作業を行う。

八月十八日(金)

埋め戻し作業。基礎の型枠が外れたところで、基礎部分のところまで土を戻す。埋め戻しと同時に千葉の鉄骨工場での原寸検査に立会う。実際に建つ鉄骨の原寸図を原寸場で確認。本物のスケールを感じ取る事が出来た。

八月二十一日(月)
砕石、捨てコン(レベルコン)を行う。

八月二十二日(火)
墨出し作業。辰では現場の監督が立会い、大工と一緒にやっていく。職人任せの他社の現場ではあまり見られない光景だ。いいことだと感じている。

八月二十三日(水)
基礎部分と構造材をつなぎ合わせる、アンカーセットの位置を確認する。鉄骨造の建物の最大のポイントともいえるアンカーのセットはやり直しが全く利かない箇所なので慎重に慎重を重ねる。

八月二十四日(木)
昨日と同じ作業。実はおおいに自信を持って行った墨出しだったが、多少調整が必要になった。自分では完璧だと思っていたのに、意外な結果に改めて墨出し作業の難しさを知る。この後三十日には、鉄骨の建て方作業が始まるが三日で完了する。やはり鉄骨造は工期の点では圧倒的に早く、その分費用はRC造に比べれば安い。この後も、きっちり工期を守るよう、十二分な管理を進めていきたい。

1975年生まれ 埼玉県出身
工学院大学建築学科卒業
趣味:旅行(学生時代は、カナダ、アメリカ、イギリス、イタリアなどへ休みを利用してよく出かけていた。)

担当した主な物件 (設計者)
F邸 (長田直之/ICU+)
王子集合住宅 (長田直之/ICU+)

TOPICS/INFORMATION

「永福町テラス 新築工事 地鎮祭」 8月8日

テラスハウス3戸の長屋状共同住宅です。

構造:RC造 地上2階
用途:共同住宅
設計:小野建設一級建築士事務所
完成予定:2007年1月



「S邸 新築工事 地鎮祭」 8月22日

東正面に中野区立平和の森公園が広がる、緑豊かな環境の住宅です。

構造:RC造 地上3階
用途:専用住宅
設計:タステンアトリエ
完成予定:2007年3月



「H邸 新築工事 地鎮祭」 8月22日

数年前山中氏設計の賃貸物件に入居した建築主が、「自宅新築の際には、設計は山中先生に」という夢を実現させました。

構造:RC造 地下1階 地上4階
用途:専用住宅
設計:山中デザイン研究所
完成予定:2007年4月



「12プロジェクト新築工事 地鎮祭」 8月24日

建築主はデザイナー。表参道にラフなコンクリート打ち放し仕様の自邸を建てられます。

構造:RC造 地下2階 地上1階
用途:専用住宅
設計:New Gvesthouse + G.DeSIGN
完成予定:2007年3月



「高久ビル 新築工事 地鎮祭」 8月24日

平塚駅前に建つ大型商業ビルです。
構造:S造 地上8階 用途:店舗、事務所、専用住宅
設計:ユニホー東京支店 一級建築士事務所
完成予定:2007年5月

編集後記

・新潟では「みかんぐみ」を始め、たくさんの建築家の方の活動を見ることができました。

(株)辰 通信 Vol.78 発行日 2006年9月11日
編集人:松村典子 発行人:森村和男

